



タキイ交配

キャベツ

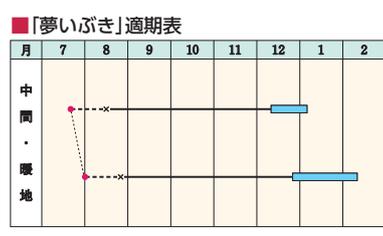
「夢いぶき」^{ゆめ}



年内から年明けの安定出荷が可能。
在圃性にすぐれ、
黒腐病に強い寒玉中生種！



タキイ研究農場 しろひろ 良裕



「夢いぶき」栽培メモ	
最適播種期	中間地 7月中下旬～8月上旬まき→12月上中旬～2月上旬どり 暖地 7月下旬～8月上中旬まき→12月上中旬～2月上旬どり
耐病性	黒腐病、萎黄病
最適土壌	保水性がよく、肥沃な土壌
播種基準	加工・業務向け出荷：株間35～40cm 青果出荷：株間30～35cm

「夢いぶき」は「BCR龍月」と同レベルの高度な黒腐病耐病性をもち、寒傷みや裂球で出荷量が落ちる12月下旬～1月に高レベルの耐寒性と在圃性を発揮します。寒玉系の「夢シリーズ」に加わること冬場のさらなる安定生産が可能になりました。

中間地・暖地での数年間の試作と経済栽培の結果から、所定の特性を十分に発揮することを確認し、「BCR龍月」と2品種同時に新発表いたします。

耐病性の強化、耐倒伏性を目標に育成された寒玉種「BCR龍月」と「夢いぶき」

栽培ポイント

「夢いぶき」は低温期の生育を緩やかにしたことで、耐寒性や在圃性を発揮する品種です。そのため播種や定植は適期で行い、年内に生育を順調に進め、玉を仕上げるのが上作のポイントとなります。

逆に播種や定植が遅れた場合、適サイズの玉になる前に低温の影響で、玉肥大が緩慢になることがあります。

例えば気温低下が急な関東の中間地では、8月25日ごろまでに定植を終えられるように、播種期を設定します。その他の地

域も適期表を参考に、播種、定植期を決定してください。

生育初期からの適切な外葉形成が良作のポイントです。そのため肥沃な圃場への作付けを優先します。定植後は十分な灌水を行い、早期活着に努めます。水分や肥効の抜けやすい圃場では、その後も灌水や追肥を適宜行い、適切な外葉形成を心掛けましょう。

肥培管理は元肥主体で行います。初期生育の時点で肥効を高め、外葉を大きく作ることで玉肥大を進めます。また、追肥で生育後半まで安定した肥効を確保します。



↑黒腐病に強い「夢いぶき」。(圃場左側)



↑「夢いぶき」



↑他品種

1 適期播種、定植を心掛ける

2 圃場選定、肥培管理

3 栽植密度

4 病害防除

▶年内～年明けに安定出荷が可能

葉肉が厚く生育がじっくりするため、耐寒性と在圃性にすぐれます。そのため、凍霜害による品質低下や、過熟による裂球を招きやすい12月下旬～1月に品質のよい玉が安定して収穫できます。

▶加工・業務、青果兼用種

加工・業務用出荷では契約期間内に決まった数量を安定して出荷することやカット後の歩どまりが高いことが求められます。

「夢いぶき」の耐寒性や在圃性は、低温期の安定出荷に最適です。また、短芯で収穫後の歩どまりがよいため、加工・業務用として安心して栽培いただけます。

青果向けとしても形状が扁円に安定するため、箱詰めが容易です。

▶倒伏しにくく多収

「BCR龍月」と同様、生育後半まで根張りが持続し倒伏しにくく、玉尻からの腐敗が少なく収量が上がります。

▶黒腐病に強い耐病性

「BCR龍月」と同レベルの黒腐病耐病性を示します。従来の予防的防除と組み合わせることで、発病リスクを大幅に低減できます。

出荷ニーズに応じた夏まき品種提案

玉出荷がメインとなる青果向け出荷では、面積当たりの箱数を増やすため、密植栽培でも玉ぞろいがよいことが特に求められます。

「BCR龍月」は耐病性以外でも、特に玉ぞろいに関しては主要産地で評価をいただいています。中間・暖地の11月どり栽培をご検討ください。

一方、加工・業務向け出荷の秋どりでは大玉で、早生・在圃性にすぐれ計画出荷しやすい「おきな」が定番です。

12月～4月どりは密植適性と在圃性を併せもつ、以下の青果・加工業務兼用種がおすすめです。

12月～1月どり：「夢いぶき」

2～3月どり：「夢ごろも」「彩音」

4月どり：「夢舞妓」

いずれの品種も、加工・業務需要で特に使用量の大きい「千切り」でキャベツに求められる「芯が短く、くり抜きやすい」「長さのある千切りが取れる扁円形状」「濃緑な葉色と球内色のコントラストで、カット時の見ばえがよい」という特長を持ち合わせています。

また「夢舞妓」は4月どり適性に加え、冷蔵貯蔵性にもすぐれるため、端境期である4～5月の安定出荷に貢献します。